



筑紫女学園大学リポジット

An Analysis of the discernment about Japanese Traditional Accustomed Colors and the Continuance

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-02-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岡本, 文子, OKAMOTO, Ayako メールアドレス: 所属:
URL	https://chikushi-u.repo.nii.ac.jp/records/266

「慣用色名に関する認識度と受容性」

岡 本 文 子

An Analysis of the discernment about Japanese Traditional Accustomed Colors and the Continuance.

Ayako OKAMOTO

1. 緒 言

現代の社会生活においては、自然界の色彩のみならず科学技術を駆使したハイテク塗料による製品や建造物、化学染料による繊維製品など数限りなく多彩な色彩が存在する。私たちはそれらの色彩と共に生活し、情報として認知し、さらにそれらを伝達したり表現したりしている。「慣用色」とは、そのように生活の中で利便的に活用しながら、同時に生活文化として創造され、廃棄や継承を繰り返しながら表現としてあるいは感性としての伝統文化を形成しているものでもある。

筑紫女学園短期大学研究紀要 第40号「慣用色名に関する認識度と認識色の分析」において、50色の慣用色名についての認識度と認識色に分析を行ったが、その中で色彩を識別する能力と再現する能力との間には差異があることが認められた。言い換えればたくさんの色の中から知っている色を識別したり特定することは比較的易しいが、知っていると思っている色でも、色の名前を聞いてその色を画面上に再現することは難しいということである。したがって本研究では、現代の社会生活や家庭生活においてどのような慣用色名が認識されており、情報として受容されているかを主眼とし、現代の情報伝達の手段としての色名の役割について考察したい。また現代の若い世代は文化の継承者でもある。その意味で、文化の継承の一過程として、色の表現形式の形成についても探って行きたい。

2. 方 法

2.1 調査対象

18歳～19歳の女子大学生 114名

2.2 調査内容

(調査1)

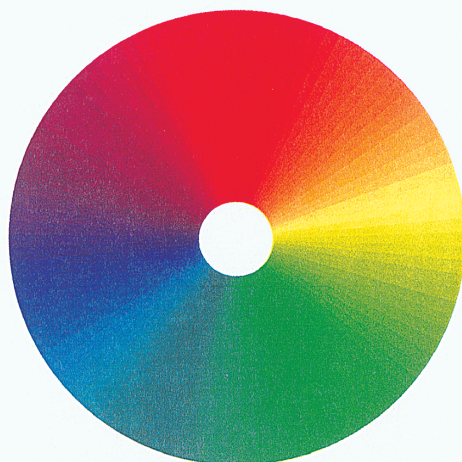
- ・JIS慣用色名一覧表より白・黒を除いた165色について、明確にその色をイメージすることができるかどうかを答える調査表を、対象に配布し記入することとした。

- ・コンピュータソフト UPシリーズ「MODA」を用いてJIS慣用色名165色のH・S・V（色相・彩度・明度）について要素分析して、基本色による色相別（表1，図1）に分類し，各色相の認識度について分析した。
- ・JIS慣用色名のうち認識度の高かった色名と認識度の低かった色名，それぞれについてコンピュータソフト UPシリーズ「MODA」を用いてH・S・Vの要素分析を行い，H・S・Vの特質について考察した。
- ・調査対象114名の調査結果を学科別に分類し，同様の分析を行った。
- ・JIS慣用色名(165色)を日本の伝統色と外来語色(カタカナ表記)に分類し，同様の分析を行った。

表 1

色 相	角度（Hの値）
赤	0° ～ 17°
黄赤	18° ～ 54°
黄	55° ～ 90°
黄緑	91° ～ 126°
緑	127° ～ 162°
青緑	163° ～ 198°
青	199° ～ 234°
青紫	235° ～ 270°
紫	271° ～ 306°
赤紫	306° ～ 342°
赤	343° ～ 360°

図 1



3. 結 果

3.1 色相別慣用色の認識度【表2】



認識度が高かった色名



認識度が低かった色名

番号	J I S慣用色名	人数	H	S	V
1	ボルドー	23	0	86	22
2	シグナルレッド	6	0	90	91
3	オールドローズ	8	1	54	84
4	臙脂	55	1	92	81
5	ストロベリー	67	2	93	84
6	茜色	43	2	91	68
7	ローズ	75	3	90	91
8	紅色	79	3	96	87
9	カーミン	21	4	96	87
10	ローズグレイ	9	5	17	58
11	珊瑚色	44	6	62	94

赤系

12	スカーレット	25	6	97	94
13	樺色	5	6	100	91
14	鉛丹色	3	7	93	87
15	弁柄	2	8	95	61
16	紅梅色	28	9	67	87
17	蘇芳（すおう）	10	9	94	55
18	紅赤	40	9	100	91
19	蝦茶	12	9	91	55
20	小豆色	76	10	86	68
21	マルーン	3	12	91	35
22	バーミリオン	6	12	93	91
23	錆色	21	12	100	32
24	赤錆色	24	15	100	52
25	ピンク	86	16	41	94
26	鳶色（とびいろ）	11	16	90	32
27	煉瓦色	48	16	100	71
28	パールグレイ	20	16	25	65
29	スチールグレイ	3	17	50	45
30	金赤	5	18	100	87
31	柿色	57	18	100	91
32	ココア色	65	19	69	42
33	褐色	46	19	100	29
34	ベビーピンク	65	22	21	94
35	サーモンピンク	74	22	67	97
36	バーントシエンナ	2	22	100	74
37	チョコレート色	76	22	100	26
38	茶鼠	4	23	35	58
39	肉桂色	4	24	84	58
40	桃色	83	25	57	91
41	栗色	72	26	90	32
42	たいしゃ色	1	26	100	81
43	ピーチ	74	28	41	94
44	黒茶	52	30	100	3
45	らくだ色	34	33	100	71
46	琥珀色	39	33	96	78
47	肌色	87	34	56	94
48	杏色	32	34	90	91
49	小麦色	66	35	83	78
50	オレンジ	88	36	100	94
51	ブラウン	82	36	100	48
52	金茶	14	36	100	87

黄赤系

53	蜜柑色	61	38	100	94
54	タン	2	38	95	58
55	バフ	1	40	73	71
56	ページユ	83	41	52	81
57	バーントアンバー	5	42	100	39
58	コルク色	35	42	100	78
59	アイボリー	43	42	22	87
60	ネーブルスイエロー	4	42	73	97
61	カーキ	69	43	100	55
62	卵色	43	45	57	97
63	レグホーン色	0	45	63	87
64	黄土色	80	46	100	91
65	山吹色	73	47	100	97
66	ひまわり色	41	47	100	97
67	プロンド	54	47	82	87
68	砂色	32	49	32	81
69	セピア	74	50	75	13
70	鬱金色	37	50	100	97
71	芥子色	53	51	100	81
72	クロームイエロー	28	52	100	97
73	オリーブドラブ	1	53	90	32
74	鶯茶	20	56	100	39
75	たんぽぽ色	38	58	100	97
76	中黄	2	58	90	97
77	カナリヤ色	12	58	100	97
78	銀鼠	6	58	17	74
79	オリーブ	35	59	100	29
80	クリーム色	83	60	62	94
81	生成り色	5	61	11	87
82	レモン色	85	62	100	91
83	鶯色	29	62	91	33
84	鶺鴒色	1	66	74	87
85	苔色	34	71	77	41
86	オリーブグリーン	19	73	57	23
87	抹茶色	66	74	60	71
88	若草色	49	74	100	76
89	若葉色	36	76	53	83
90	松葉色	12	77	87	47
91	草色	34	80	82	35
92	白緑	1	82	41	87
93	萌黄色	21	84	96	73

黄
系

94	緑青色	12	87	93	44	黄緑系
95	リーフグリーン	15	88	69	62	
96	ボトルグリーン	0	93	45	17	
97	錆浅葱	2	95	42	50	
98	エメラルドグリーン	80	98	90	60	
99	深緑	72	113	91	33	
100	マラカイトグリーン	1	116	88	53	
101	青磁色	9	120	36	60	
102	青竹色	21	131	67	49	
103	スレートグレイ	1	131	15	36	
104	常盤色	4	135	100	49	緑系
105	鉄色	25	140	60	16	
106	ビリジアン	44	142	90	30	
107	コバルトグリーン	45	147	93	100	
108	利休鼠	1	154	13	58	
109	ピーコックグリーン	4	172	100	41	
110	ピーコックブルー	5	178	100	46	
111	浅葱	13	183	84	66	
112	ナイルブルー	11	184	71	45	
113	納戸色	4	189	92	34	
114	新橋色	1	190	94	66	青緑系
115	セルリアンブルー	21	190	100	48	
116	スカイグレイ	12	193	18	63	
117	スノーホワイト	49	194	0	100	
118	水色	82	195	52	90	
119	シアン	7	200	90	90	
120	マリンプルー	56	200	68	29	
121	ターコイズブルー	68	203	83	74	
122	藍鼠	5	205	27	44	
123	露草色	9	213	91	71	
124	空色	65	220	43	97	青系
125	サックスブルー	13	223	32	57	
126	はなだ色	7	225	64	45	
127	鉛色	27	228	11	38	
128	ベビーブルー	21	233	28	97	
129	コバルトブルー	49	238	71	45	
130	藍色	71	240	68	29	
131	濃藍	27	240	58	22	
132	ミッドナイトブルー	21	240	100	3	
133	鉄紺	2	240	100	3	
134	ネイビーブルー	41	256	67	26	青紫系

135	瑠璃色	34	257	60	35
136	紺青	22	259	61	16
137	群青色	57	260	81	42
138	ライラック	3	270	38	74
139	藤納戸	1	272	36	45
140	紺藍	16	272	78	35
141	藤色	52	273	38	78
142	桔梗色	13	275	61	52
143	菖蒲色	15	281	82	52
144	あやめ	23	285	77	48
145	堇色	56	290	80	39
146	パンジー	27	292	80	33
147	江戸紫	20	300	91	35
148	ラベンダー	72	300	25	55
149	茄子紺	9	300	100	27
150	チャコールグレイ	21	300	9	22
151	墨色	50	300	50	3
152	モーブ	2	302	61	48
153	桜色	54	317	26	91
154	オーキッド	0	320	38	74
155	紫紺	7	320	100	27
156	古代紫	4	325	80	48
157	牡丹色	27	327	96	74
158	マゼンダ	11	330	100	81
159	鳩羽色	1	331	27	36
160	つつじ色	22	339	94	84
161	鶺鴒色	1	343	65	90
162	ワインレッド	80	350	95	61
163	ローズピンク	61	351	76	91
164	バーガンディー	0	354	90	16
165	鼠色	77	358	11	48

紫系

赤紫系

3.2 最も認識度の高かった慣用色名（総合）【表3】

日本の伝統色名

	J I S 慣用色名	人数	H	S	V
1					
2	肌色	87	34	56	94
3					
4					
5					
6					
7	黄土色	80	46	100	91
8	紅色	79	3	96	87
9	鼠色	77	358	11	48
10	小豆色	76	10	86	68

外来語系色名

	J I S 慣用色名	人数	H	S	V
1	オレンジ	88	36	100	94
2					
3	ピンク	86	16	41	94
4	レモン色	85	62	100	91
5	クリーム色	83	60	62	94
6	ブラウン	82	36	100	48
7	エメラルドグリーン	80	98	90	60
8					
9					
10	チョコレート色	76	22	100	26

図2 最も認識度の高かった慣用色名
総合（日本の伝統色名）

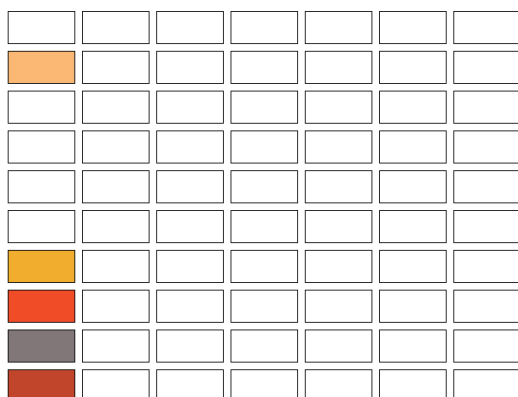


図2 最も認識度の高かった慣用色名
総合（外来語系）



3.3 最も認識度の低かった慣用色名（総合）【表4】

日本の伝統色名

番号	J I S 慣用色名	人数	H	S	V
2	利休鼠	1	154	13	58
	とき色（鶺鴒色）	1	343	65	90
	藤納戸	1	272	36	45
	鳩羽色	1	331	27	36
	鶺鴒色	1	66	74	87
	新橋色	1	190	94	66
	白緑	1	82	41	87
3	弁柄	2	8	95	61
	中黄	2	58	90	97
	鉄紺	2	240	100	3
4	鉛丹色	3	7	93	87
5	納戸色	4	189	92	34
	常盤色	4	135	100	49
	茶鼠	4	23	35	58
	古代紫	4	325	80	48
	肉桂色	4	24	84	58
6	生成り色	5	61	11	87
	金赤	5	18	100	87
	樺色	5	6	100	91
	藍ねずみ	5	205	27	44
7	銀鼠		58	17	74

外来語系色名

番号	J I S 慣用色名	人数	H	S	V
1	ボトルグリーン	0	93	45	17
	レグホーン色	0	45	63	87
	オーキッド	0	320	38	74
2	スレートグレイ	1	131	15	36
	オリーブドラブ	1	53	90	32
	マラカイトグリーン	1	116	88	53
3	モーブ	2	302	61	48
	バーントシェンナ	2	22	100	74
	タン	2	38	95	58
4	ライラック	3	270	38	74
	マルーン	3	12	91	35
	スチールグレイ	3	17	50	45
5	ネーブルスイエロー	4	42	73	97
	ピーコックグリーン	4	172	100	41
6	ピーコックブルー		178	100	46
	バーントアンバー		42	100	39
7	バーミリオン		12	93	91
	シグナルレッド		0	90	91

図 3

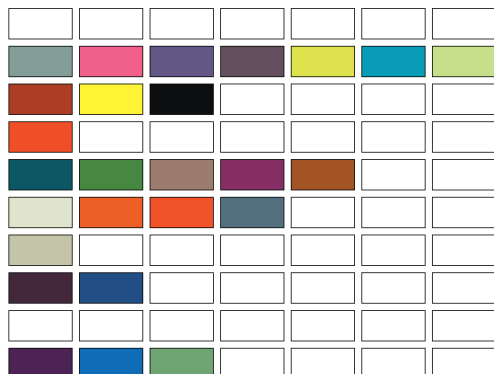
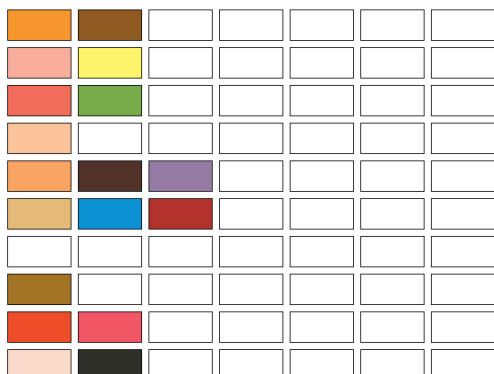


図 3



3.4 学科別—最も認識度の高かった慣用色名「英語学科」【表5】

日本の伝統色名			外来語系色名		
番 号	色 名	人 数	番 号	色 名	人 数
1			1	オレンジ	28
				ブラウン	
2	肌色	27	2	ピンク	27
				クリーム色	
3	桃色	26	3	ローズ	26
				エメラルドグリーン	
4	水色	25	4	ピーチ	25
5	鼠色	24	5	サーモンピンク	24
				チョコレート色	
				ラベンダー	
6	紅色	23	6	ベージュ	23
				ターコイズブルー	
				ワインレッド	
7	栗色	22			
	黄土色				
	深緑				
8	小豆色	21	8	カーキ	21
	黒茶				
	空色				
9	煉瓦色	20	9	ストロベリー	20
	小麦色			ローズピンク	
	山吹色				
	藍色				
			10	ベビーピンク	19
				セピア	

図 4

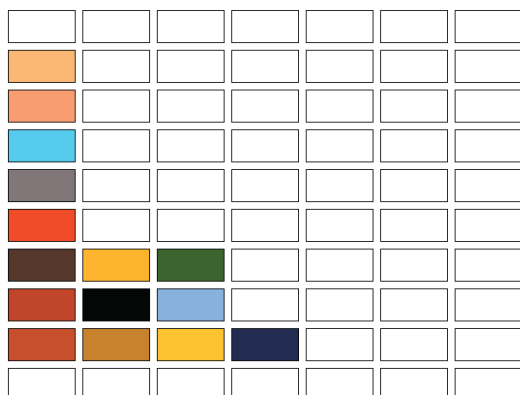


図 4



3.5 学科別—最も認識度の低かった慣用色名「英語学科」【表6】

日本の伝統色名			外来語系色名		
番号	色名	人数	番号	色名	人数
1	鶺鴒色	0	1	レグホーン色	0
	新橋色			マラカイトグリーン	
	鉄紺			ボトルグリーン	
	鳩羽色			ピーコックグリーン	
	紫紺			シアン	
	鴝色			ライラック	
	生成り色			オーキッド	
	利休鼠			バーガンディー	
				スレートグレイ	
				スチールグレイ	
2	たいしゃ色	1	2	タン	1
	中黄			ネーブルスイエロー	
	白緑			カナリヤ色	
	青磁色			オリーブドラブ	
	納戸色			モーブ	
	藤納戸				
	銀鼠				
	茶鼠				

図5



図5



3.6 学科別—最も認識度の高かった慣用色名「日本語・日本文学科」【表7】

日本の伝統色名

番号	色名	人数
1	小豆色	21
	肌色	
2	桃色	20
	蜜柑色	
	山吹色	
	黄土色	
	水色	
3	藍色	19
	紅色	
	柿色	
	栗色	
	深緑	
4	桜色	18
	抹茶色	
	董色	
	墨色	
5	空色	17

外来語系色名

番号	色名	人数
1	チョコレート色	21
	オレンジ	
	ベージュ	
	レモン色	
	エメラルドグリーン	
2	ワインレッド	20
	ピンク	
	ブロンド	
	クリーム色	
3	ローズ色	19
	ココア色	
	ブラウン	
	セピア	
4	ピーチ	18
	マリンブルー	
	ラベンダー	
5	ターコイズブルー	17
	コバルトブルー	

図6

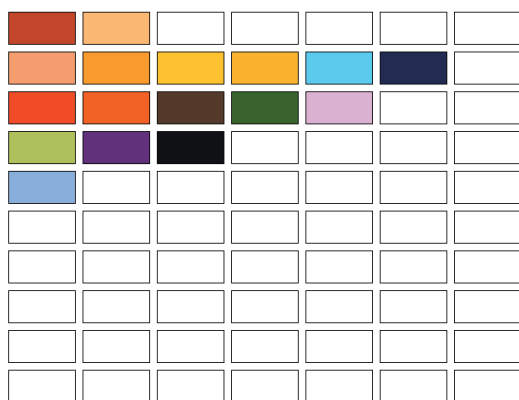
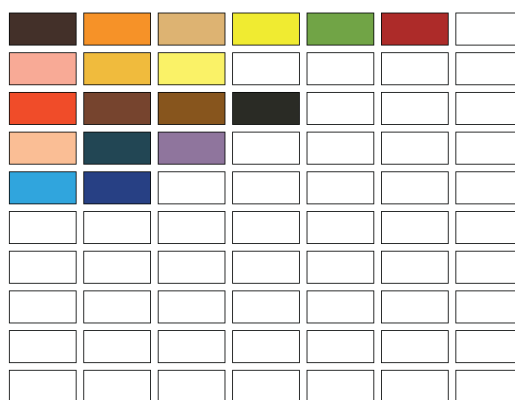


図6



3.8 学科別—最も認識度の低かった慣用色名「発達臨床心理学科」【表9】

日本の伝統色名			外来語系色名		
番号	色名	人数	番号	色名	人数
1	蘇芳	0	1	オールドローズ	0
	鉛丹色				
	弁柄				
	鳶色				
	金赤				
	肉桂色				
	樺色				
	たいしゃ色				
	鶯色				
	白緑				
	常盤色				
	錆浅葱				
	納戸色				
	鳩羽色				
	銀ねず				
	利休鼠				
	2			蝦茶	
金茶					
中黄					
露草色					
はなだ色					
鉄紺					
桔梗色					
茶鼠					
			シグナルレッド		
			バフ		
			ネーブルスイエロー		
			オリーブグリーン		
			ピーコックグリーン		
			マゼンダ		
			ローズグレイ		
			スカイグレイ		

図8

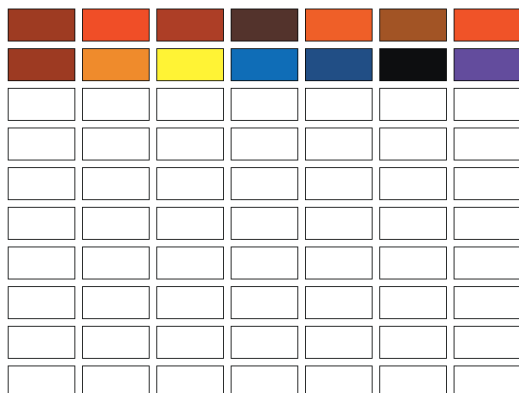
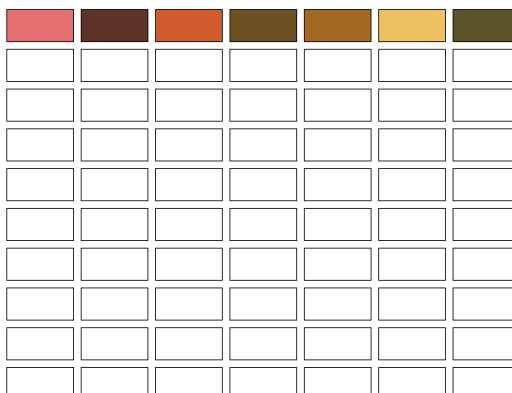


図8



3.9 学科別—最も認識度の高かった慣用色名「発達臨床心理学科」【表10】

日本の伝統色名

番号	色名	人数
1	肌色	23
2	抹茶色 水色	22
3	紅色 黄土色 桜色	21
4	桃色	20
5	深緑 鼠色	19
6	小豆色 栗色	18
7	空色 藍色	17
8	蜜柑色	16
9	小麦色 山吹色	15
10	群青色	14

外来語系色名

番号	色名	人数
1	オレンジ レモン色	23
2	ピンク ベージュ クリーム色	22
3	セピア	21
4	ブラウン ワインレッド	20
5	ストロベリー	19
6	サーモンピンク カーキ エメラルドグリーン ラベンダー	18
7	ベビーピンク チョコレート色 ピーチ ターコイズブルー	17
8	ローズ ココア色	16
9	ローズピンク	15

図9



図9



3.10 学科別—最も認識度の低かった慣用色名「アジア文化学科」【表11】

日本の伝統色名

番号	色名	人数
1	鉛丹色	0
	弁柄	
	中黄	
	鶺鴒色	
	白緑	
	錆浅葱	
	新橋色	
	藍鼠	
	鉄紺	
	藤納戸	
	鳩羽色	
	鴝色	
	利休鼠	
2	蝦茶	1
	金赤	
	肉桂色	
	樺色	
	松葉色	
	常盤色	
	納戸色	
	露草色	
	菖蒲色	
	古代紫	
	茄子紺	
	銀鼠	
	茶鼠	

外来語系色名

番号	色名	人数
1	バーントシェンナ	0
	タン	
	バフ	
	レグホーン	
	ボトルグリーン	
	オーキッド	
	バーガンディー	
	スレートグレイ	
2	シグナルレッド	1
	マルーン	
	バーミリオン	
	バーントアンバー	
	ネーブルスイエロー	
	マラカイトグリーン	
	モーブ	
	ローズグレイ	
スカイグレイ		
スチールグレイ		

図10

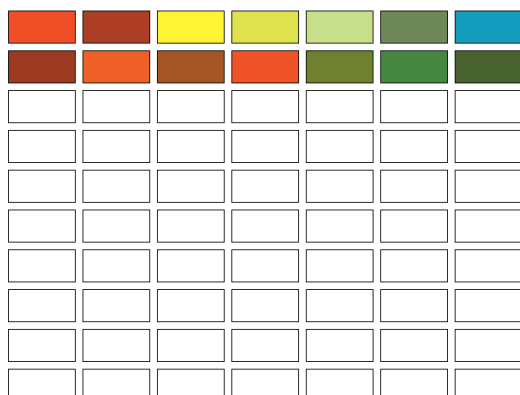
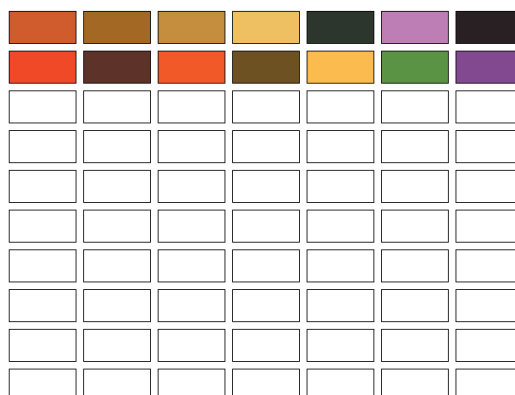


図10



3.11 学科別—最も認識度の高かった慣用色名「アジア文化学科」【表12】

日本の伝統色名

番 号	色 名	人 数
1	山吹色	18
2	桃色	17
	小麦色	
	黄土色	
3	紅色	16
	小豆色	
	肌色	
4	水色	15
	桜色	
5	藍色	14

外来語系色名

番 号	色 名	人 数
2	ピンク	17
	ベージュ	
3	ベビーピンク	16
	オレンジ	
	レモン色	
	ワインレッド	
4	サーモンピンク	15
	ブラウン	
	セピア	
5	ローズ	14
	チョコレート色	
	ピーチ	
	カーキ	
	クリーム色	

図11

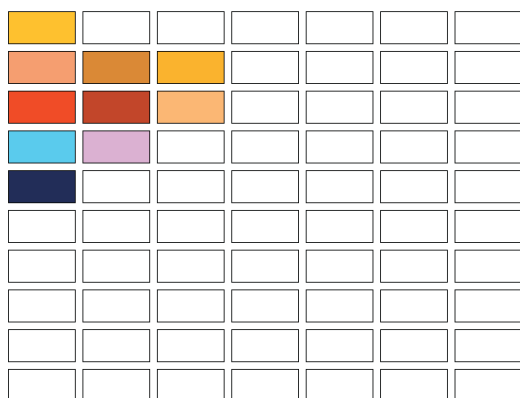
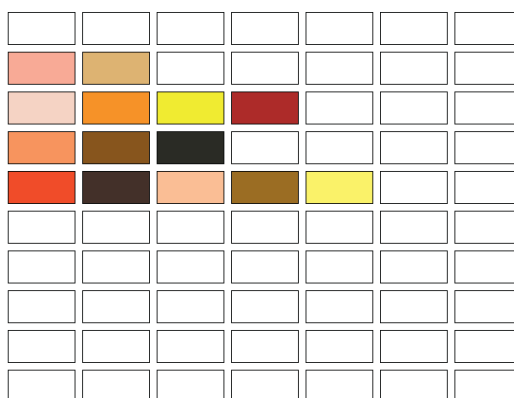


図11



4. 結 論

まず慣用色名を色相別に分類した表2の認識度についてみると、慣用色名そのものの数が赤系、黄赤系、黄系に偏っていることが認められる。一方黄緑系、緑系が最も少なくなっている。さらに認識度の高い色名は、赤系、黄赤系に集中しており、認識度の低い色名は黄系から黄緑系、緑系に多いことが明らかになった。このことは暖色系統の色が、いかに生活に根づいた親しみのある色であるかを物語っている。慣用色名の数が多いということは、一方その色相においては微妙な差異の識別が容易である、逆に数が少ない場合にはその色相においては差異の識別が困難であるという物理的要因も考えられる。色相によって物理的な識別能力に差異が生じるかどうかについては、今後医学的見地からのアプローチがさらに必要である。

生活習慣的に見ると、数が多いということは、識別能力とは別の意味で多用しており、愛着があるということも考えられる。

表3・図2に表されている全学科総合の結果から見ると、最も認識度の高かった慣用色名ではオレンジ、ピンク、レモン色など日常的に馴染み深い色名には外来語系の色名が多いことがわかる。日本の伝統色系の色名では「慣用色名の認識度と認識色の分析」(筑紫女学園短期大学紀要 第40号)の結果と同様に、美術教材の絵の具の色名が最も認識度の高い色名に挙げられる。このことはやはり学校教育における教材選択や教育内容が、日本の伝統文化の継承に重要な役割を担っていることを裏付けている。また、色相には偏りがあり、1~10位の12色のうち「エメラルドグリーン」「鼠色」を除けば全て色相環 0° ~ 90° 内の赤~黄赤~黄の色相となっている。さらに12色中8色が高明度、同じく12色中8色が高彩度となっており、いずれも明るい色、明確な色が挙げられている。色を識別するにあたっては、外的環境と心理的環境によって決定づけられる。つまり具体的には、物理的な「見え」と心理的なイメージ、言葉による表現という3つの要素の総合評価と考えられる。したがって慣用色名の受容性についても、この3つの要素から考察する必要性がある。

続いて最も認識度の低かった色名を見ると、(表4、図3)やはり「ボトルグリーン」「レグホーン色」「オーキッド」といった外来語系の色名が挙げられ、その特質は自明ではあるが、意味が連想できない、または連想しにくい外来語であること、日常生活の中で見る機会の少ない、馴染みの薄い外来語であることが挙げられ、トーンにおける特徴は明度・彩度が中程度以下の中間色であることが挙げられる。このことは認識度の高い色が高明彩度の明確な色であることと対照的である。

ところで慣用色名の由来にはいくつかの系統があり、ひとつは即物的名称であり、「○○のような色」例えば「オレンジ」や「チョコレート」「鶉色」「露草色」のように実物を知っていれば認知度の高い色名となるし、実物を知らなければ思い描くことができない。「鶉」のように現在の日本では数羽しか生息しない鳥類とあっては、見た経験のある方が珍しいであろう。「鶉色」や「鶉色」のような見る機会の乏しい即物的な名称の認識度が低いことには必然性がある。しかしながら即物的な名称の色名であっても伝統色として継承されることについては別の側面がある。本来調査2のように特定の色を表現する場合には「○○のような色」という表現が最も多用されている。しかしそ

れが慣用色名として定着するためには連続性と抽象化が必要である。調査1の結果から、即物的な名称であっても色そのものが抽象化された場合に定着性が高く、認識度が高いという結果をもたらしている。美術教材の絵の具の色が認識度が高いというのも、色名は即物的であっても絵の具として使用してきた経験の連続性によって、実物を思い浮かべるのではなく色そのものが抽象化されて記憶されていることによると考えられる。そういった意味では日本の伝統色を抽象化、定着させる役割を担っていたのは現代まで呉服商であった。「鶺鴒」という鳥は知らなくても、呉服商には「鶺鴒色」があり、呉服商は「あの黄緑のお着物……」などとは呼ばなかったのである。現代の生活様式においては和装の機会は少なくなっており、同時に日本の伝統色名が伝達される機会をも少なくなっている。生活様式の変化という点で言えば、「マゼンダ」や「シアン」のように調査結果では決して高いとは言えない色名が、各家庭にパソコンが普及し、プリンタを置き「マゼンダ」や「シアン」のインクを交換することが日常になれば、やがて認識性の高い色名になるであろうことが予見される。

また、商業的イメージ戦略による抽象化も抽象化の要因として挙げられる。商品価値を高めるために色名の持つイメージが連続的に使用されることは抽象化と定着を促す結果となる。日常生活においては「紫」と「ラベンダー」を区別する必然性には乏しいが、商品のカラーサンプルとしては「紫」と「ラベンダー」ではイメージに差異がある。外的に連続して心理的環境に働きかけがあれば、それは抽象化されて記憶される。「エメラルドグリーン」は認識度の高い色名に挙げられ、エメラルドそのものも良く知られている宝石ではあるが、美しい海の色としての認知性も高い。この場合も抽象化されて定着した例と言えよう。それに対して抽象化が定着できていない例としては、「卵色」が挙げられる。「卵」を知らない人間はいない、しかし「卵色」を知っている、明確にイメージできると答えた対象は114人中43人であった。

色名の由来にはその他に、染料系の色名が挙げられる。しかしながら染料系の色名は総じて認識度が低い結果となっている。高度に分化した社会においては、染料はもはや身近なものではなくなっているのである。また即物的喩えでも染料からでもなく名付けられた色名に「新橋色」のような流行色系がある。このような色名はその時代を象徴する色であるが、時の経過とともに忘れられていくべく運命づけられている。現代では、明治から大正時代の流行色である「新橋色」の認識度は非常に低い。一方現代では近年トルコ石のアクセサリーが若い世代間で流行したために、「ターコイズブルー」の認識度は高くなっている。流行によって店頭や雑誌などで見聞きし、流行は一種の目に見えない圧力となって、「ターコイズブルー」を他の呼び方では呼ばせない。また流行は連続性を一定期間維持するため、定着を促しやすいという側面も持っている。

次に、対象者は将来文化の継承者として次代を担う若い世代であるが、学科別にはどのような差異が認められるかについて見ていきたい。認識度が高かった慣用色名については、外来語系の色名の各学科間の共通性は高く、各学科間に特段の差異は認められなかった。英語学科においても、(表4, 図3) 外来語系の色名が多い傾向には無かった。むしろ日本語・日本文学科では(表5, 図4) 外来語系の慣用色名の共通性は高く、日本の伝統色名には他学科と異なる点が認められた。

それはまず、知っている、明確にイメージできると答えた色数が他学科に比較して多いこと、最上位の色名は共通しているものの、他学科では認識度の低い色名のいくつかが日本語・日本文学科では認識度の高い色名に挙げられていることである。例えば「堇色」「珊瑚色」「琥珀色」「臙脂」などである。それらは一種のノスタルジアや抒情的なアトモスフィアを有した色名であり、それらの具体的色名から考察すれば、色名に対して伝達の意味での機能性よりも、自己完結型の積極性が窺える。それに対してアジア文化学科では、(表7, 図6) 明瞭, 明確な色が中心で、日本の伝統色名においては絵の具の色, 外来語系色名では社会生活に密着した機能性重視の様相が見て取れる。認識度の低い色名については各学科間に明らかな差異は認められなかった。

最後に、「慣用色名に関する認識度と認識色の分析」(筑紫女学園短期大学紀要 第40号)で述べたように、明確にイメージできると答えた対象でも、共通理解が得られている範囲で把握できているかについて、本研究では確認できていない。例えば「セピア」のようによく知られた名称でも、パソコンによる再現では、再現された色にはかなりの誤認が散見された。慣用色名は数も多く、特定のイメージされた色を再現することはややもすると困難な作業である。したがって、慣用色名やトーン別などの特定された色の再現性については、どう検証していくかに今後工夫が望まれる課題である。

資 料

- ・ カラーコーディネーター検定試験テキスト
東京商工会議所
- ・ 日本色研配色パネル「上級用」

参 考 文 献

- ・ 色名小事典 財団法人日本研究所
- ・ 人はなぜ色にこだわるのか 村山貞也